

「結婚新生活応援金」が支給されました



▲今回支給された太田さん夫妻

2月27日、太田仁志さん梨絵さんご夫妻に小関町長から結婚新生活応援金が支給されました。おふたりは令和元年11月に婚姻届を提出され、新しい生活を始めており、「応援金を将来のために役に立てたい。」と話されていました。結婚新生活応援金は、定住化の促進と結婚後の新生活の負担軽減を目的に支給され、今年度は太田さんご夫妻で3組目の支給となりました。

鹿児島県宇検村で物産交流



▲七ヶ宿町の物産が販売されました

3月23日、鹿児島県宇検村で宇検村観光・物産協会主催の「第2回ゆいの市」が開催され、物産販売が行われました。この催しは、友好都市協定を結ぶ宇検村と本町が交流を深めようと開催され、持ち込んだ七ヶ宿源流米や雪室果物、野菜などを買い求めるため多くのお客様が詰めかけていました。物産交流は平成26年から始まり、お互いの物産の販路や需要の拡大を目指して今後も行っていきます。

第50回仙台広告賞ポスター部門 金賞受賞！



▲ポスター部門金賞を受賞した「七ヶ宿町「ない」もの自慢！」

仙台広告協会、河北新報社をはじめ新聞、民放、印刷会社など8社共催で開催する「第50回仙台広告賞」にて七ヶ宿町がポスター部門金賞を受賞しました。仙台広告賞とは、県内に本社または事業所がある企業・団体が企画・制作した広告のうち、昨年に掲載、掲示、放送された作品を対象としています。今回は、新聞など5部門に計121点の応募のなかから入賞作品26点が決定しました。後日仙台市で表彰式が開催される予定です。

七ヶ宿町生活支援体制整備事業

七ヶ宿のおたからめ～けだ！（みつけた!）

生活支援体制整備事業とは、社会福祉協議会が町から受託し行っている地域支援事業の一つです。

七ヶ宿でいつまでも自分らしく暮らしていくためには支え合いが欠かせません。また、日頃の生活の中に、自然にある支え合いや人と人とのつながりを「おたから」と呼びます。「おたから」といっても大人数が集まるサロンや見守りシステムなどだけを意味するものではありません。

私が七ヶ宿町に来て2年が経ちましたが、この町には厳しい環境や歴史の中で自然に育まれた隣近所への心配りや気配りがあり、町民の方々が強い絆で結ばれていることを教えていただきました。

当たり前のように行われている支え合いを、今一度皆さんと共有して再確認したいと思っています。皆さんからの「おたから情報」お待ちしております。町で見かけた際にはいつでもお声掛けください。

※文中の太文字を並び替えてある言葉を見つけてください。正解者の方には景品プレゼント♪ ◎クイズの答えは、社会福祉協議会植草まで



七ヶ宿町社会福祉協議会
生活支援コーディネーター

うえくさ あきな
植草 映奈

運動教室(げんき塾)にお邪魔させて頂きました!!



参加者の方から「`今日用がある、今日行く場所がある、それが大事だと聞いているから」というお話があり、集まりの場に積極的に行くようにしているとお話を伺いました。始まる前に皆さん笑顔でおしゃべりを楽しんでおり、「〇〇ちゃんは今日どうしたの?」とお声もあがり、皆さんのつながりの輪に触れることができました。ここにひとつ、おたからを見つけました!

●お問い合わせ 社会福祉協議会 ☎37-2271 (担当:植草)

このコーナーでは、広報担当者が町の「あれこれ」取材し、その魅力を発見・発信する記事です。

無限陶房

道の駅七ヶ宿の隣、木製の看板と窓から見える店内の陶器が印象的な無限陶房があります。

七ヶ宿で採れる良質な粘土を用いて七ヶ宿焼を製作しており、今年一月には町のブランドにも認定されました。七ヶ宿の自然と炭焼きの文化から生み出されたブランド「東北炭流し」は、白色の釉薬に墨を流す、墨流しといわれる古来の技法を用いた唯一無二の作品です。

広報等を担当する地域おこし協力隊の石田浩康さんは、「生活の一部(の陶器)として、七ヶ宿焼を皆様に使っていただきたいです。」



▲無限陶房 ※不定休
(道の駅七ヶ宿敷地内)
☎0224-26-8290

と話し「この陶器をきっかけとして、多くの方々に七ヶ宿の魅力を伝えることが自分たちの使命」と話されています。今後は七ヶ宿焼が身近に感じられるようなイベントも検討しているとのことでした。

七ヶ宿焼は主に、無限陶房、道の駅七ヶ宿、旬の市で購入することができます。ぜひ皆さんも「七ヶ宿焼」を見て、触って、使ってみませんか?

まちのあれこれ
町記者が行ってみたい!

「七ヶ宿焼」が七ヶ宿町を代表する名品となるように

